

社 会

社会的な見方・考え方を働かせ、学習課題を協働的に追究する授業づくり

「社会的な見方・考え方」とは

空間、時間、相互関係など多様な視点に着目して社会的事象等を捉え、その意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりすること

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 自らの疑問や予想に基づいて調べたり考えたりすることができるよう、学習課題の設定や発問の構成を工夫する。
- ② 地図や年表、統計などの各種の資料を精選して提示したり、学んだ事象相互の関係を整理する機会を設けたりするなど、社会的事象等について調べまとめる技能を効果的に活用できるようにする。
- ③ 論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動の充実を図る。
- ④ 比較・分類したり、関連付けたりし、社会的事象相互の関係を多面的・多角的に考える活動の充実を図る。
- ⑤ 単元の中に適切に振り返りの時間を設け、自分の調べ方や学び方を振り返ったり、新たな問いを見いだしたりできるようにする。

単元を通して追究した内容を再構成し、学びを深める学習の例

中学校第2学年 単元名「近世の日本」 小単元～幕府の政治の展開～

<小単元のねらい> 社会の変化や幕府の政策の変化などに着目して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせた理由を多面的・多角的に考察し、表現する。

問いを生かした単元構成の例

社会的な見方・考え方を働かせ、考察や構想に向かう「問い」を単元の指導計画に位置付け、小単元の学習課題や各次の課題を設定します。①

【小単元の学習課題】

幕府が様々な政治改革などを行ったのに、なぜ百姓一揆や打ちこわしの平均発生件数が増加したのだろうか。

<予想 a>

(既習から) 社会に大きな変化があり百姓一揆などに結び付いたのではないか。

<予想 b>

政治改革を進めても解決できない問題が国内外にあったからではないか。

<予想 c>

新しい学問や文化、考え方が社会の変化に影響を与えたのではないか。

【予想 a に対する 1 次の課題】

都市や農村で産業の発達が見られたのに、なぜ百姓一揆などが多発したのだろうか。

【予想 b に対する 2 次の課題】

幕府は、国内外のどのような問題に直面し、その問題にどう対応したのだろうか。

【予想 c に対する 3 次の課題】

新しい学問や文化、考え方は社会の変化にどのような影響を与えたのだろうか。

【小単元のまとめ】

各次の学習内容を踏まえて、小単元の学習課題について考察するなど、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れます。また、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする機会を適切に設定します。⑤

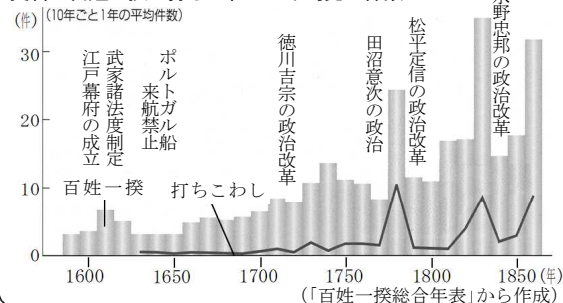
T: 資料から、どのような変化がみられるようになったか、時期や出来事との関わりに着目して読み取ってみましょう。

S1: 江戸幕府ができて 100 年以上経った頃から政治改革が頻繁に行われています。

S2: 百姓一揆や打ちこわしが政治改革の前後に多くなっています。また、18 世紀以降は増加傾向にあります。

S3: 政治改革と百姓一揆などには何か関わりがありそうです。

資料 百姓一揆と打ちこわしの平均発生件数

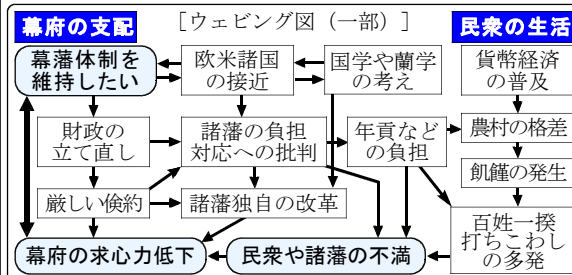


時期や時間の経過、事象の相互関係等を問う視点から資料を精選して提示し、社会的事象の様子や課題等を捉えることができますようにします。②

T: 追究した結果がそれぞれどのように関連しているか、幕府の支配と民衆の生活の面から図にまとめてみましょう。

S1: 幕府と民衆の思いをどう関連付けられたいのでしょうか。

T: 背景や原因、影響などに着目して結んでみましょう。



T: 図から気付いた幕府や民衆などの思いを基に、学習課題のまとめを文章で表現してみましょう。

- 幕府は財政の立て直しなどを行って幕府体制を維持しようとしたが、それが社会の変化に対応できなかったり、民衆や諸藩に負担を強いたりしたため、不満が大きくなり、百姓一揆などが増加したと考えます。

追究した結果を基に、相互関係を整理して図にまとめたり、文章で表現したりして、これまでの学びを再構成し、社会的事象の特色を多面的・多角的に考察できるようにします。④

